



## 令和8年度広島大学光り輝き入試 総合型選抜・学校推薦型選抜 (令和7年度実施)「選抜のポイント、面接等の出題例等」

※1 以下は、学部・学科等の募集単位ごとに選抜のポイントや出題例を示したものです。次年度の広島大学光り輝き入試が、以下のように行われるということではありませんので、ご注意ください。

※2 本文中又は学部・学科等の名称の後に入学者選抜方式が記載されていない場合は、総合型選抜の内容を示しています。

### 総合科学部 総合科学科

#### 総合型選抜 I型(一般型)

##### <第1次選考>

第1次選考は、出願書類（調査書及び自己推薦書）について、それぞれ「評価のポイント」を定め、段階評価により総合判定を行った。

##### <最終選考>

最終選考では、受験者は最初に講義を聴き、その後、講義の内容について「小論文」を作成した。この「小論文」には、日頃から授業等を通じて、読解力、論理的思考力、文章構成力と表現力などの養成が求められる。「面接」は、総合型選抜の「アドミッション・ポリシー」に基づいた総合科学科生としてふさわしい学生の選考を目的に、受験者個別に約20分の面接を実施した。

最終選考の合否判定は、「小論文」と「面接」の合計点に出願書類（調査書及び自己推薦書）の評価を加味した総合判定で行った。

#### 総合型選抜 I型(サイエンス研究評価型)

##### <第1次選考>

第1次選考は、出願書類（調査書、自己推薦書、プレゼンテーション資料、研究概要及び各種研究活動における発表経験や受賞実績等を証明する資料等）に基づき、段階評価により総合判定を行った。

##### <最終選考>

最終選考では、受験者は約5分間で自身の研究実績についてプレゼンテーションを実施した後、プレゼンテーションの内容について質疑応答を行った。基礎的知識・コミュニケーション力・課題発見力・問題解決力・論理的思考力・プレゼンテーション力（表現力）を評価し、総合型選抜の「アドミッション・ポリシー」に基づいた総合科学科生としてふさわしい学生の選考を目的に実施した。

最終選考の合否判定は、「プレゼンテーション（研究発表）と質疑応答」による評価に、出願書類の評価を加味した総合判定で行った。

#### 総合型選抜 フェニックス型



受験者は最初に講義を聴き、その後、講義の内容について「小論文」を作成した。この「小論文」には、基本的な文章表現力や記述能力及び読解力を問うとともに、論理的思考力や独創力・発想力及び構成力が求められる。「面接」は、総合型選抜の「アドミッション・ポリシー」に基づいた総合科学科生としてふさわしい学生の選考を目的に、受験者個別に約 20 分の面接を実施した。

合否判定は、「小論文」と「面接」の合計点で判定を行った。

**総合科学部 国際共創学科**

**総合型選抜 IGS 国内選抜型**

＜第 1 次選考＞

第 1 次選考は、出願書類（自己推薦書（英語で記述）、英語民間試験の成績証明書等及び学業成績・各種試験結果証明書）に基づき、段階評価により総合判定を行った。

＜最終選考＞

最終選考では、第 1 次選考の合格者に対して、英語による直接面接を行った。

受験者は、社会的（Social）、国際的（Global）、科学的（Scientific）な課題を理解し、自分自身のアイデアを論理的かつ説得力をもって英語で説明することが求められる。

また、社会で活躍する上での適応力や創造性を示すことも求められる。

最終選考の合否判定は、面接結果の総合評価に、出願書類（自己推薦書（英語で記述）、英語民間試験の成績証明書等及び学業成績・各種試験結果証明書）の評価を加味した総合判定で行った。



文学部 人文学科

<面接>

複数の面接者による個人面接を実施した。面接では、提出された出願書類に基づき、志望理由、高校までの学習や課外活動の経験、文学部人文学科及び志望する専門分野への関心、大学で取り組みたい研究内容等について質問した。評価に当たっては、文学部で学ぶことへの意欲と適性、主体的な学習姿勢、自らの考えを論理的かつ分かりやすく表現する力、他者との対話を通じて考えを深める姿勢等を総合的に評価した。

<受験者へのメッセージ>

面接では、特定の知識量のみを問うのではなく、これまでの学習や活動を踏まえて、自らの関心や考えを自分の言葉で説明できることを重視している。日頃から読書や探究活動等を通じて関心のあるテーマについて考えを深め、その内容を他者に分かりやすく伝える力を養っておくことが望ましい。



**教育学部 第一類（学校教育系）初等教育学プログラム**

<面接（プレゼンテーション含む）>

1人あたり約20分の個別面接（プレゼンテーションを含む）を実施した。

「準備室入室→プレゼンテーションのテーマを知る。準備室でプレゼンテーションの準備をする。→試験室入室→プレゼンテーションの実施と質疑応答→志願時に提出された課題レポート及びその他の事項についての質疑応答→退室」

プレゼンテーションは、「きまりを守ることの大切さ」というテーマについて、小学生にわかるように伝えるという想定で行った。

総合型選抜の「アドミッション・ポリシー」に基づいて初等教育学プログラムにふさわしい学生を選考する。

**教育学部 第一類（学校教育系）特別支援教育学プログラム**

<面接（プレゼンテーション含む）>

○プレゼンテーションの準備（約25分）：面接準備室

面接準備室で課題用紙等を使用してプレゼンテーションの準備を求めた。

○プレゼンテーションと面接者との質疑応答（約20分）：面接試験室

課題について持っている意識や意見、アイデア等をまとめた課題用紙をもとに、口頭でのプレゼンテーションを課した（約10分）。その後、プレゼンテーションの内容に関して面接者との質疑応答を行い（約10分）、問題意識、創意・工夫力、想像力、プレゼンテーション力、特別支援教育や関連する事項への関心等を多面的に評価した。

○一般面接（約10分）：面接試験室

最後に、本プログラムの志望動機等に関する質問を行った。

**教育学部 第二類（科学文化教育系）理科教育学プログラム**

<面接（プレゼンテーション含む）>

準備室及び試験室2室において受験者1人ずつに対して以下の順序及び内容により試験を実施した。

○プレゼンテーションの準備（15分）：準備室

自然及び自然科学に関する課題について、A4用紙に資料を作成してプレゼンテーションの準備をする。

○プレゼンテーションと口頭試問（15分）：試験室A

作成した資料をプロジェクターで提示しながら、プレゼンテーションを行う。その後、プレゼンテーション内容に関する質問に回答する。

○一般面接試験（15分）：試験室B

自然や自然科学及び科学教育に対する関心や考え方に関する質問に加えて、志望理由や大学生活に対する期待などについての質問に回答する。

**教育学部 第二類（科学文化教育系）数学教育学プログラム**

<課題レポート>



数学についての課題レポートや調査書、自己推薦書などの出願書類により第1次選考を行った。特に、最も重要である課題レポートでは、学生募集要項に記載されたように、A4用紙片面4枚以内で、数学の内容に関する探究課題を自分で設定して記述することを求め、以下の観点をポイントにして評価を行った。

○展開されている議論が数学的に妥当かどうか。

○単に調べたものを羅列しているだけではなく、オリジナルな考察が行われているかどうか。

○簡潔に記述されているかどうか。

数学の内容ではなく、授業実践の提案に近いレポートも見られたが、これは我々の意図に沿うものではなかった。また、高校の数学科の内容を超えるレポートも見られ、内容をどのように理解したのかについて、自分自身の考えを述べてほしかった。

最終的には、大学入学共通テストの成績に基づいて、合格者を決定した。

**教育学部 第二類（科学文化教育系）技術情報教育学プログラム**

<面接（プレゼンテーション含む）>

○形式

試験室1室にて受験者1人ずつ20分程度で設定されたテーマに基づくプレゼンテーションと個人面接を行った。

○プレゼンテーションの内容について（例）

出願書類、技術・情報とその教育に関連する内容に関する課題を提示した。

○面接での質問について（例）

本学の教育学部技術情報教育学プログラムを志望した動機や理由、入学後の抱負、プレゼンテーションの内容などについて質問した。

**教育学部 第二類（科学文化教育系）社会認識教育学プログラム**

<面接（プレゼンテーション含む）>

○形式

面接員4名による個人面接（試験時間14分：プレゼン7分，質疑応答7分）

○質問内容

高等学校地理歴史科・公民科の学習内容をふまえた資料と課題を与え、受験者が口頭でプレゼンテーションを行う形式の面接を個別に行った。

手順としては、まず一人ずつ準備室で29分間ほどプレゼン回答の準備をしてもらい、その後、受験者を面接室に移動させて、題材に関連する知識の理解度と、社会現象の原因や背景、解決策などを多面的・多角的に考察して表現する能力を中心に評価した。

**教育学部 第三類（言語文化教育系）国語文化教育学プログラム：学校推薦型選抜**

<面接>

本プログラムの「アドミッション・ポリシー」を踏まえ、提出された調査書・推薦書及び志望理由書をもとに個人面接（約15分）を行った。面接試験では、国語文化とその教育に



対する関心・意欲について、ア) これまでの学習状況，イ) 言葉とその文化に関する関心・問題意識，ウ) 中等国語科教育に携わる者としての意欲・態度，エ) 論理的な表現力・話し方を観点として，評価を行った。

**教育学部 第三類（言語文化教育系）英語文化教育学プログラム**

<面接（プレゼンテーション含む）>

○形式

面接試験は，英語によるものと日本語によるものの2本立てで実施した。（試験時間 20分程度）

○内容

英語による面接では，短い文章を元に，（1）黙読，（2）音読，（3）内容理解とそれに対する自分の意見表明，という順序で行った。

日本語による面接では，教育に関する時事的問題をめぐって，それに関する考えを発表してもらった。

○面接・プレゼンテーションのポイント

英文の内容を的確に理解し，自分の考えを論理的かつ分かりやすく表現できること，面接者との間で適切なコミュニケーションが取れること，質問を適切に理解して回答できることを重視した。また，英語文化および英語教育への関心，教職への適性，入学後の学修意欲，将来像等についても総合的に評価した。

**教育学部 第三類（言語文化教育系）日本語・日本文化教育学プログラム**

<面接（プレゼンテーション含む）>

○形式

複数の面接員による個人面接およびプレゼンテーション（合計 30分程度）

○内容

本プログラムの「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」に基づき，面接とプレゼンテーションを行い，出願書類や配付資料に関して，複数の面接員からの質問に答えることが求められた。

○面接・プレゼンテーションのポイント

面接員との間で適切なコミュニケーションが取れること，質問を適切に理解し，自分なりの考えを自らの言葉で表現できること，論理的に話せることなどが重要。準備してきた内容を話の流れに関係なく一方的に話すことは望ましくない。

日本語・日本文化教育学プログラムが求める学生像をアドミッション・ポリシーとしてまとめている。それをよく読んで，面接に臨んでほしい。

**教育学部 第三類（言語文化教育系）多文化・グローバル教育学プログラム**

<面接（プレゼンテーション含む）>

個人面接の約 20 分前に面接準備室に移動し，提示されたプレゼンテーション課題について準備を行った。プレゼンテーション課題は，多文化共生，平和，国際開発をテーマとする



3つの資料から1つを選択し、問題に即して自らの考えを述べることであった。

約10分間の面接では、冒頭で1人3分以内のプレゼンテーションを行った後、質疑応答を行った。質問は、プレゼンテーション内容、3つの領域（志願者の関心の強い1~2つ）に対する問題意識、入学後の学修意欲・内容、将来像等について行った。

**教育学部 第四類（生涯活動教育系）健康スポーツ教育学プログラム**

＜実技＞

出願時に提出された競技実績等に係る証明資料を踏まえ、受験者が選択した運動・スポーツ種目について実技試験を行った。選択した種目における基礎的・専門的な運動能力、競技特性の理解、実技遂行能力等を評価の対象とした。

＜面接（プレゼンテーション含む）＞

面接では、提示された課題についてプレゼンテーションを行い、その内容に関する質疑応答を行った。課題は、「近年、中学校部活動の地域移行が進められています。部活指導が学校から地域に移行することで得られるメリットと、想定されるデメリットを挙げた上で、あなた自身は部活動にどのように関わっていきたいと考えますか。」という内容であった。

面接では、この課題に対する考えに加え、志望動機、入学後に学びたいこと、健康・スポーツに関する関心や経験、将来の展望等についても確認した。面接時間は15~20分間であった。

＜面接・プレゼンテーションのポイント＞

評価にあたっては、提示された課題の内容を正確に理解し、健康・スポーツや学校教育、地域社会との関わりについて、多面的に考えることができているかを重視した。また、自身の経験や関心と結び付けながら、自分の考えを論理的に表現できているかについても評価の対象とした。

日頃から、健康・スポーツをめぐる社会的課題について、新聞やニュース、書籍等を通して関心を持ち、多様な立場や考え方があることを知っておくとよい。また、競技者としての経験だけでなく、学校教育、地域スポーツ、指導・支援、生涯スポーツなどの幅広い視点から考え、自分の経験や将来の目標と関連付けながら、根拠に基づいて分かりやすく説明できるよう準備しておくことが望まれる。

**教育学部 第四類（生涯活動教育系）家政教育学プログラム：学校推薦型選抜**

＜面接＞

本プログラムの「アドミッション・ポリシー」である、1) 高等学校段階で習得すべき家庭科の能力及び他教科での基礎的・基本的な学力、2) 人間生活に関する教育的課題や学問的課題への関心、問題を発見し、解決に向けて思考・表現する力、3) 自らの問題意識に基づいて主体的に探究し、多様な人と交流するコミュニケーション能力を踏まえ、提出された調査書、推薦書及び志望理由書をもとに個人面接（約15分）を行った。面接では、志望理由を含めて、本プログラムで学ぶことへの関心・意欲・態度、中等家庭科教員を目指す者としての資質や姿勢について質問し、それらの質問を適切に理解し、回答できるかを重視し



た。

**教育学部 第四類（生涯活動教育系）音楽教育学プログラム**

<実技>

①新曲視唱

②コンコーネ 50 番（任意の 3 曲を事前に提出し，その中から当日指定された 1 曲を視唱奏）

③選択した種目の演奏

以上の 3 つを課した。

<面接（プレゼンテーション含む）>

第 1 面接室では，大学で音楽のどのようなことを学びたいか，またそれが今の時代にどのような重要性を持つかということについて問う面接を行った（8 分間）。当該領域に関する知識の量，瞬時の対応力，コミュニケーション能力，論理的な表現力を評価の対象とした。

第 2 面接室では，「この世から音楽が全てなくなったとしたら」と仮定し，その世界での人々の暮らしや文化がどう変わるか，ということについてのプレゼンテーションを行った（8 分間）。プレゼンテーションにはホワイトボードを使うことができる。感受性，発想力，表現力，説得力を評価の対象とした。

<面接試験・プレゼンテーションのポイント>

広く社会における音楽的事象について，本や新聞を読んだり，音楽の先生などと会話・議論したりするなどして，知識を増やし，多様な見方や考え方があることを知っておくとよい。また，「音楽」「音楽教育」「演奏会」「奏法」「演奏スキル」「音楽史」「西洋音楽」「日本音楽」「アンサンブル」などをキーワードにした本の中から興味のあるものを選んで読むのもよい。その中で気になった点や話題になっていることなどを書き出し，それに対する自分の考えを書く練習をするとよい。書いたり議論したりする際には，根拠に基づき自分の考えを論理的に一貫するように主張することが重要である。

**教育学部 第四類（生涯活動教育系）美術教育学プログラム**

最終選考において，実技，面接（プレゼンテーション含む）の各試験を行った。

<実技>

入試問題（過去問）を公表しているので，希望者は閲覧することができる。

閲覧方法は広島大学の公式ウェブサイトを確認すること。ただし，実技検査の内容が令和 9 年度入試（令和 8 年度実施）から変更されているので，広島大学の公式ウェブサイトや美術教育学プログラムのウェブサイトを確認すること。

<面接（プレゼンテーション含む）>

控室から面接室に移動後，一人当たり 20 分程度の面接（プレゼンテーション含む）を行った。大まかな内容は以下のとおり。

○面接（プレゼンテーション含む）（20 分程度）



面接室で、出願時に提出してもらった「美術に関わる活動実績調査書(ポートフォリオ)」を用いて、5分程度のプレゼンテーションを実施してもらい、終了後、その内容について質疑応答を行った。続いて、「美術及び美術教育に関する問題意識、意欲、関心、思考力、表現力、適性など」に関わる質疑応答を行った。

○その他

- ・面接は、受験番号順に行った。
- ・受験者控室では、飲食物、本・雑誌等を持ち込んでよいこととした。

**教育学部 第五類(人間形成基礎系) 教育学プログラム**

<面接(プレゼンテーション含む)>

受験者は教育に関するプレゼンテーションの課題を与えられ、30分間でプレゼンテーション用の資料を作成した後、面接を行った。面接では、作成した資料を提示しながら1人3分のプレゼンテーションを行った後、それをもとに質疑応答を行った。

**教育学部 第五類(人間形成基礎系) 心理学プログラム**

<面接>

面接では、現代社会における「こころ」の問題に関する関心、知識、洞察力を把握し、思考力や論理的表現力について調べることを目的とした。はじめに、志望動機や心理学への関心・意欲等について確認した。その後、「こころ」に関わる資料を受験者に提示し、それについての自分の考えを発表してもらったうえで、発表内容等について質疑応答を行った。面接は受験者1人ずつに対して行い、面接の時間は1人につき25分程度であった。



法学部 法学科昼間コース

**総合型選抜 I 型**

<面接>

○形式

複数の面接者による個人面接（面接時間 12 分）

○質問内容

出願書類をもとに以下内容の質問をした。

- ・法学部に入学後、何を学びたいか
- ・その内容を自分の将来にどのように生かすのか
- ・現在までに学びの準備としてどのようなことをしてきたのか

また、法学部が実施する「社会科学オーディション」での対面企画の内容に関連する質問を行った。

**総合型選抜 II 型**

<面接>

○形式

複数の面接者による個人面接（面接時間 10 分）

○質問内容

修学に対する意欲，人間や社会に対する深い関心や問題意識，それらを論理的に表現・説得するコミュニケーション能力を問うことを目的とし，アドミッション・ポリシーに合う意欲・能力を持っているかどうかを問う質問を行った。

**総合型選抜 国際バカロレア型**

<面接>

○形式

複数の面接者による個人面接（面接時間 20 分）

○質問内容

修学に対する意欲，人間や社会に対する深い関心や問題意識，国際感覚，それらを論理的に表現・説得するコミュニケーション能力を問うことを目的とし，アドミッション・ポリシーに合う意欲・能力を持っているかどうかを問う質問を行った。

法学部 法学科夜間主コース

**総合型選抜 社会人型**

<面接>

○形式

複数の面接者による個人面接（面接時間 10 分）



○質問内容

働きながら修学する意欲，社会人として人間や社会に対する深い関心や理解，それらを論理的に表現・説得するコミュニケーション能力，法学部で学ぶ知識を社会生活にどのように活かしていくか，ということを行うことを目的とし，アドミッション・ポリシーに合う意欲・能力を持っているかどうかを問う質問を行った。

**総合型選抜 フェニックス型**

<面接>

○形式

複数の面接者による個人面接（面接時間 10 分）

○質問内容

修学に対する意欲，人間や社会に対する社会人としての過去の経験に基づく深い関心や理解，それらを論理的に表現・説得するコミュニケーション能力を問うことを目的とし，アドミッション・ポリシーに合う意欲・能力を持っているかどうかを問う質問を行った。



**経済学部 経済学科昼間コース**

**総合型選抜 国際バカロレア型**

<面接>

複数の教員により、個人面接を行う。アドミッション・ポリシーに基づき、問題意識と勉学意欲を重視し、あわせて問題解決能力や議論する能力をみる質問をして、適性を判断する。

○質問例

- ・志望動機とそれに関連する経済学等の知識
- ・入学後に学びたい内容
- ・将来のキャリアビジョン など

**経済学部 経済学科夜間主コース**

**総合型選抜 社会人型、フェニックス型**

<小論文>

論文・評論等を題材とし、経済学・経営学を学ぶ上での適性をみる問題を出題する。令和8年度は、「成果主義の課題」「インフレ・ターゲットの理由」に関する問題を出題した。

<面接>

複数の教員により、個人面接を行う。アドミッション・ポリシーに基づき、問題意識と勉学意欲を重視し、あわせて問題解決能力や議論する能力をみる質問をして、適性を判断する。

○質問例

- ・志望動機とそれに関連する経済学等の知識
- ・入学後に学びたい内容
- ・将来のキャリアビジョン など

**経済学部 経済学科昼間コース、夜間主コース：学校推薦型選抜**

<面接>

複数の教員により、個人面接を行う。アドミッション・ポリシーに基づき、問題意識と勉学意欲を重視し、あわせて問題解決能力や議論する能力をみる質問をして、適性を判断する。

○質問例

- ・志望動機とそれに関連する経済学等の知識
- ・入学後に学びたい内容
- ・将来のキャリアビジョン など



**理学部 数学科**

＜筆記試験＞

試験時間は90分で、数学の問題であった。数学の基礎知識・思考力・表現力をみる問題である。

＜面接の内容・方法＞

高校数学の基礎概念に関する課題を与え、それについて面接員が質問して、受験生が解答し、数学的な理解及びコミュニケーションがとれるかを判定した。なお、「女子枠」に出願した者については、将来の研究者（科学者など）としてのキャリア形成、ダイバーシティ課題への関心及び協働力に関する質問を行った。

＜合否判定基準等＞

筆記試験と面接の総合点を主とし、調査書（調査書の全科目の成績と数学の成績を点数化）と志望理由（自己推薦書の一部）を加味した。

**理学部 物理学科**

＜口頭試問＞

物理と数学の基礎的な学力を問う問題を課した。

＜面接の内容・方法＞

複数の教員が物理学への関心度や進学希望動機などを尋ねた。また、身近な生活科学や自然現象等に関連した質疑応答を通じて、学習能力、思考能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を判定した。なお、「女子枠」に出願した者に対しては、将来の研究者（科学者など）としてのキャリア形成に関する考えや、ダイバーシティの課題に対する関心、ならびに協働力についての質問を行った。

＜出願書類において重点を置いて評価した点＞

調査書を参考にしつつ、自己推薦書において、物理学に対する興味や志望動機、及び、物理学に関する高校時代の特別活動を総合的に評価した。

＜合否判定基準等＞

口頭試問と面接による評価から適性が認められる者について、調査書を加味して判定した。

＜受験者や高校教員に伝えたいメッセージ＞

物理、数学、英語の基礎学力は入学後の学習に特に必要なので、高校までに学ぶ範囲をしっかり身につけて欲しい。

**理学部 化学科**

＜面接の内容・方法＞

複数の審査委員による1人30分程度の面接を実施した。化学への関心度（高校時の化学に関する取り組みや興味）や入学志望動機に関する質問や、高校レベルの化学（無機化学、理論化学、有機化学）に関する知識・論理性等を問う質疑応答を行った。

＜面接において特に重視した点＞



志望動機，学習意欲，理解度，専門知識，独創性，論理性，表現力を総合的に重視して評価した。

<出願書類において重点を置いて評価した点>

成績優秀であることに加えて，化学の分野を学びたいという意欲，新しいことを切り開いていきたいという意欲をもっているか，という点を重視した。

<合否判定基準等>

面接による評価に出願書類の評価を加味して総合的に判定し，合否を決定した。

<受験者や高校教員に伝えたいメッセージ等>

化学に関する事象に深い興味と探究心をもち，それらの機構や謎の解明に挑戦する意欲溢れる生徒の受験を期待している。

**理学部 生物科学科**

<面接の内容・方法>

複数の審査委員による1人30分程度の面接を実施した。生物学への関心度や入学志望動機に関する質問や，高校レベルの生物学に関する知識・論理性等を問う質疑応答を行った。なお，「女子枠」に出願した者については，将来の研究者（科学者など）としてのキャリア形成，ダイバーシティ課題への関心及び協働力に関する質問を行った。

<面接>

○形式

複数の面接者による個人面接（試験時間30分程度）

○質問内容（例）

生物学への意欲と適性，知識，論理的思考力，コミュニケーション力などを問うことを目的とし，以下のことについて質問した。

- ・生物分野の著名な研究とその内容について
- ・生物の環境応答とそのしくみについて
- ・生物の生態と生態系について

※質問に対する回答内容に基づいて，その内容や関連する事項について追加で質問した。

<面接において特に重視した点>

志望動機，学習意欲，専門知識，独創性，論理性，表現力を総合的に重視して評価した。

<出願書類において重点を置いて評価した点>

学業成績に優れ，特に生物を含む高校理科科目及び英語の成績が優秀であることを評価した。

<受験者や高校教員に伝えたいメッセージ等>

生物や生物が関わる自然現象に対する好奇心や探求心に溢れ，生物の謎に挑もうとする意欲ある学生の積極的な応募を期待している。

**理学部 地球惑星システム学科**

**総合型選抜 II型（一般型）**



<口頭試問>

地球科学の専門及び関連分野の基礎知識と理解力をみるため、関連する物理学・化学を含む地球科学分野から問題を課した。

<面接の内容・方法>

勉強や研究をする意欲と能力を判断するための質問をし、適性等を総合的に評価した。

**総合型選抜 II型(日本地学オリンピック利用型)**

<口頭試問>

地球科学の専門及び関連分野の基礎知識と理解力をみるため、関連する物理学・化学を含む地球科学分野から問題を課した。

<面接の内容・方法>

勉強や研究をする意欲と能力を判断するための質問をし、適性等を総合的に評価した。

<面接において特に重視した点>

地球惑星科学や災害・環境科学への興味・関心や論理的思考などを重視した。

<出願書類において重点を置いて評価した点>

調査書及び自己推薦書を偏りのないように評価した。

<合否判定基準等>

口頭試問、面接及び出願書類を総合的に評価し選考した。



**医学部 医学科**

**総合型選抜 II型**

＜小論文・面接の内容・方法，面接において特に重視した点＞

小論文では，英語の読解能力と科学的な思考力を点数化して評価した。面接では，課題に対するプレゼンテーションの内容と自己推薦書をもとに，アドミッション・ポリシーに示された項目への適合性，研究志向を持つ医療人の育成を目指した MD-PhD コースへの進学の意思，科学的な学識の有無，及び論理性などの能力を重視して評価した。

**総合型選抜 国際バカロレア型**

＜面接の内容・方法＞

志望理由書に記載された内容も参考にしながら，アドミッション・ポリシーに示された項目への適合性，学識の有無，及び医療人としての適性を点数化して評価した。

**医学部 医学科：学校推薦型選抜 II型医学部医学科(ふるさと枠)**

＜出願書類及び面接において特に重視した点＞

広島県の地域医療，特に県内中山間地の医療に従事する意欲を中心に，アドミッション・ポリシーに示された項目への適合性，地域住民や他の医療従事者と円滑な人間関係を構築できる協調性，及び奨学金返還免除要件となっている勤務を将来確実に遂行できる人物であるかどうかを評価した。

**医学部 保健学科**

＜面接の内容・方法＞

3名の面接者による。面接時間はおおよそ15分を目安。志望動機，専攻内容に関する知識，自己アピール，自己推薦書の内容に関する質問など。

＜小論文のテーマ＞

高齢社会や健康観に関するテーマ，医療や保健，福祉のあり方に関するテーマ，職業選択と意識についてのテーマなど。



歯学部 歯学科及び口腔健康科学科

**総合型選抜 II型**

＜実施内容＞

出願書類は、勉学を含む高校時代の活動状況、歯学部を志した動機、大学での学修に対する意欲等を重視して評価した。小論文は歯学科、口腔健康科学科共に各2問出題し、採点は学生募集要項の実施科目等の内容の記載に従って行った。

面接は、歯学科では受験者を多角的に総合評価するため、異なる3名により2回、計6名の面接員により行った。口腔健康科学科では、3名の面接員により面接を行った。両学科とも受験者の出願書類を参考にしながら質問し、評価は学生募集要項の実施科目等の内容の記載に従って行った。



**薬学部 薬学科**

＜面接の内容・方法，評価基準等＞

1人の受験者に対して，異なる面接員による2回の個人面接を実施した。一方では科学の知識を問う質問，もう一方では，薬学や薬剤師への関心を問う質問をした。面接では，相手の話を正確に理解できること，論理的な話し方ができること，広島大学薬学部で学ぼうとする意欲が感じられることなどを評価した。出願書類においては，本学部で学んでいく上で必要となる国語・英語・数学・理科の十分な学力が期待できることなどを評価した。

**薬学部 薬科学科**

＜面接の内容・方法，評価基準等＞

1人の受験者に対して，異なる面接員による2回の個人面接を実施した。一方では科学の知識を問う質問，もう一方では，創薬研究や薬科学への関心を問う質問をした。面接では，相手の話を正確に理解できること，論理的な話し方ができること，広島大学薬学部で学ぼうとする意欲が感じられることなどを評価した。出願書類においては，本学部で学んでいく上で必要となる国語・英語・数学・理科の十分な学力が期待できることなどを評価した。



**工学部 第一類（機械・輸送・材料・エネルギー系）**

＜出願書類の評価＞

調査書で基礎学力を、自己推薦書でアドミッション・ポリシーへの適合を評価した。

＜面接の内容・方法＞

アドミッション・ポリシーへの適合，機械工学の分野を始めとした入学後の勉学への意欲，論理的思考と表現力などを問うことを目的とし，複数の面接者が志望動機，科学技術・社会への関心，自然科学・技術に関する基礎知識（数学，物理などを含む）などについて質問した。

＜受験者や高校教員に特に伝えておきたいこと＞

数学・物理・英語等の基礎学力が十分であり，第一類で学びたいという強い意欲を持つとともに，第一類のアドミッション・ポリシーへ適合する学生を求めています。

**工学部 第二類（電気電子・システム情報系）**

＜出願書類の評価＞

高校で取り組んだ内容，志望動機や将来の目標，問題着眼点や発想力，文章力などについて評価した。

＜面接の内容・方法＞

面接では，勉学に対する意欲や適性をみる質問ならびに数学と物理の基礎学力をみる試問を行った。

＜受験者や高校教員に特に伝えておきたいこと＞

第二類で学びたいという強い意欲や情熱が最も重要ですが，入学後の専門分野の学修に支障のない基礎学力も必須です。また，大学入学共通テストの得点を最終合格者決定の判断基準に用いていますので，学力向上を怠らないでください。

**工学部 第三類（応用化学・生物工学・化学工学系）**

＜出願書類の評価＞

調査書で高校時代の基礎学力を，自己推薦書でアドミッション・ポリシーとの適合性をそれぞれ評価した。

＜受験者や高校教員に特に伝えておきたいこと＞

第三類で学びたいという強い意欲と情熱を持ち，化学，英語及び数学について基礎学力をしっかりと身につけているとともに，入学後も勉学・研究への努力を継続できる学生を求めています。出願書類（調査書及び自己推薦書）と大学入学共通テストの成績を総合的に評価し，大学入学共通テスト後に合否を判定します（出願書類のみによる選考は行いません）。調査書と大学入学共通テストで基礎学力を，自己推薦書でアドミッション・ポリシーとの適合性をそれぞれ評価します。課外活動や化学に関する優れた業績は必須ではありません。必要な基礎学力を有し，アドミッション・ポリシーが一致する勉学意欲が旺盛な人を求めています。

**工学部 第四類（建設・環境系）**



<出願書類の評価>

自己推薦書の内容が、アドミッション・ポリシーと一致しているか重点的に評価した。

<面接の内容・方法>

調査書、自己推薦書を参考にして、小論文、面接内容を複数の教員が採点した。

<受験者や高校教員に特に伝えておきたいこと>

第四類では、工学分野において必要な基礎学力はもちろんのこと、建築・社会基盤分野に関する勉学意欲が旺盛であり、この分野で社会に貢献したい人を求めています。入学後、この専門分野を学ぶために必要な基礎学力（特に数学、物理）は必須条件となります。

第四類では、2年次進級時に建築プログラム、社会基盤環境工学プログラムのいずれかの教育プログラムに配属されます。配属は、本人の希望と1年次の成績により決定され、選抜方式（広島大学光り輝き入試、一般選抜（前期日程・後期日程））による配属ルールの違いはありません。

<その他>

スポーツ・文化活動で良い成績を挙げた学生よりも、第四類の分野で優れた才能を発揮する学生を求めています。

**工学部 工学特別コース（女子枠）**

<出願書類の評価>

高校時代の基礎学力、高校時代に取り組んだ内容や、志望動機、将来の目標などについて、文章力も含めて評価した。

<面接の内容・方法>

当日課題を与え、面接のための資料を読む時間を取ったうえで、複数の面接官による個人面接を実施した。

問題着眼点、発想力などを見るとともに、将来、女性研究者や技術者等として、工学分野の発展に貢献したいという熱意・学習意欲を中心に評価した。

<受験者や高校教員に特に伝えておきたいこと>

大学入学共通テストの得点を最終合格者決定の判断基準としているので、学力向上を怠らないこと。

高校時代に英語・数学・物理等の基礎学力をしっかり身につけておくこと。

工学特別コースは、工学は学びたいが、自分がどのような分野の職業に就きたいか決まっていない方や、入学後に色々な研究室を見学して自分の興味がある分野を決めたい方に向いています。



生物生産学部 生物生産学科

**総合型選抜 II型(セミナー受講型), 国際バカロレア型, 学校推薦型選抜 II型**

<セミナー>

生物生産学部に関連する 2 つのテーマについて、パワーポイントを用いてそれぞれ講義を行い、趣旨の理解力と問題展開の能力を評価するためのレポート作成を課した。(第 1 テーマ: 講義約 20 分間, レポート作成約 40 分間の計 1 時間。続けて第 2 テーマも同様に実施。合計 2 時間の試験時間。)

<面接>

一人あたり 15 分程度の面接を、複数の面接員との質疑応答で実施した。

**総合型選抜 II型(課題研究評価型)**

<課題研究発表, 質疑応答>

これまで取り組んできた課題研究を PDF ファイル (スライド枚数 10 枚以内) にまとめたもの (11 月上旬に事前提出) をもとに 10 分以内で発表後, 20 分程度の質疑応答を行った。

<受験者や高校教員に特に伝えておきたいこと>

セミナーの模擬動画・試験問題と解説, 並びに「課題研究評価型」については, 以下の URL もご参照ください。

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/seisei/A0>

**総合型選抜 フェニックス型**

<面接>

志望理由書を参考資料として用い, 一人あたり 30 分程度の面接を, 複数の面接員との質疑応答で実施した。



情報科学部 情報科学科

**総合型選抜 II型, 国際バカロレア型**

<面接>

○形式

複数の面接官による個人面接（試験時間 10分程度）

○質問内容

情報科学分野への意欲と適性, コミュニケーション力を問うことを目的として以下の質問をした。

- ・志望理由について
- ・情報科学分野への興味・関心について
- ・情報科学部で勉強や研究したいテーマについて

<受験生や高校教員に伝えておきたいこと>

日頃から情報科学分野に関する興味・関心を持ち, 様々な活動を通し, 学ぶ意欲を育むことが肝要です。総合型選抜では筆記試験を実施し, 数学の基礎知識や論理的思考力を評価しています。また, 総合型選抜 (II型) では大学入学共通テストの得点に合格基準点を設けているので, 基礎学力を身に付けることも不可欠です。

**学校推薦型選抜 I型 情報科学部情報科学科 (地方創生枠)**

<面接>

○形式

複数の面接官による個人面接（試験時間 10分程度）

○質問内容

・情報科学部で学ぶ意欲, 地域におけるデジタルトランスフォーメーション (DX) 推進に関する興味・関心を質問した。

- ・与えられた短い英文を読んでもらい, その内容に関する質疑応答を行った。

**【女子枠のみ】**

・女性の活躍できる社会に貢献するために情報科学部で学びたいこと, 及び自分の将来像を踏まえた志望動機を質問した。

<受験生や高校教員に伝えておきたいこと>

情報科学分野への興味・関心に加えて, 広島県におけるデジタルトランスフォーメーション (DX) 推進に強い興味・関心を持ち, 広島県に定着する意思を持つ学生の受け入れを目的としています。また, 短期間のオンデマンド講義での数学的内容の理解, 及び英文の読解力も求められます。